

# 再稼働ドミノの可能性

## 伊方、玄海は来年にも



記者会見する原子力規制委の田中俊一委員長 17日午後、東京都港区で

原子力規制委員会は、十六日に申請のあった建設中の大間原発（青森県大間町）を含め十四原発二十一基を審査している。田中俊一委員長は、高浜原発3、4号機（高浜町）が審査に合格した十七日の会見で、審査が大詰めを迎えている他の原発についても「そう遅くない時期に結論が出るだろう」と発言。原発が次々と運転を再開する「再稼働ドミノ」に向かう可能性もある。

### 高浜3、4号機「合格」

安倍政権は今年四月に閣議決定したエネルギー基本計画で原発を「重要なベースロード（基幹）電源」と位置付け、規制委の安全審査を終えた原発を順次再稼働させる考えを示している。

現在、規制委の審査が進んでいるのは、合格した川内（鹿児島県薩摩川内市）と高浜を除き、昨年七月に申請のあった泊（北海道）、大飯（おおい町）、伊方（愛媛県）、玄海（佐賀県）の四原発。このうち、玄海3、4号機と伊方3号機が来年にも合格するとの見方が出ている。

いずれも過酷事故を起こした沸騰水型軽水炉の福島第一原発とは異なる「加圧水型軽水炉」。加圧水型炉は沸騰水型炉より格納容器

が数倍大きいため、フィルタも、事故のリスクはゼロでター付きベントの設置が五年間猶予され、新基準に対応しやすいとされている。再稼働を次々と認めるのか。異論のある周辺自治体や住民は声を上げて意思表示をすべきだ」と述べる。

